

2017年7月25日(火)～7月28(金)神戸大学附属中等教育学校

1. 震災・復興とリスクマネジメント (○)
2. 国際都市神戸と世界の文化 ()
3. 提言：国際紛争・対立から平和・協調へ ()
4. グローバルサイエンスと拠点都市神戸 ()
5. その他 ()

[概要]

震災 (Disaster) ・復興 (Reconstruction) ・減災 (Reduction) ・レジリエンス (Resilience) をテーマとした仙台交流プログラム

1. テーマ

神戸大学附属中等教育学校SGH「震災・復興とリスクマネジメント」

震災 (Disaster) ・復興 (Reconstruction) ・減災 (Reduction) ・レジリエンス (Resilience) をテーマとした仙台交流プログラム

2. 目的

東京研修や被災地訪問・学校交流を通して、大規模震災に対するリスクマネジメントについて多角的な視点から学ぶ。

- ①身近な地域に起こった、あるいは今後起こるであろう自然災害について学ぶ。
- ②震災の記憶をどのように後世に伝えていくかを考える。
- ③人文科学・自然科学の両面から震災を捉え、理解する。
- ④上記活動を通して、他を思いやることのできる生徒を共に目指すことを主たる目的とする。

特に本活動においては、仙台青陵中等教育学校との交流活動を通して、上記(1)(2)(4)を達成することに重点を置く。

3. 行程

7/25	7/26	7/27	7/28
<ol style="list-style-type: none">1. 宮城復興局訪問・プレゼン2. 多賀城高校にて多賀城高校・仙台青陵中等教育学校交流3. 海上保安庁訪問4. 仙台青陵中等教育学校との交流・ディスカッション5. 宮城教育大学 防災教育未来づくり総合研究センター 小田隆史准教授との懇談	<ol style="list-style-type: none">1. 荒浜フィールドワーク ・荒浜小学校震災遺構見学 ・荒浜ロッジ2. 石巻フィールドワーク ・防災まち歩き ・防災ワークショップ ・石巻模擬避難訓練	<ol style="list-style-type: none">1. 仙台市内まち歩き (仙台駅～東北大学)2. 東北大学災害科学国際研究所・プレゼン・ディスカッション3. 南三陸町フィールドワーク ・南三陸さんさん商店街	<ol style="list-style-type: none">1. ホテル観洋女将さんによる震災体験の講話2. ホテル観洋語り部バス3. 南三陸まちあるき 志津川中心部コース4. 石巻市立旧大川小学校跡見学

4. 活動の様子



宮城復興局



宮城復興局 減災アクションカードゲーム



仙台青陵中等教育学校、多賀城高校とワークショップ



第二管区海上保安庁 訪問



仙台青陵中等教育学校とディスカッション



小田隆史先生とディスカッション



荒浜フィールドワーク



荒浜小学校



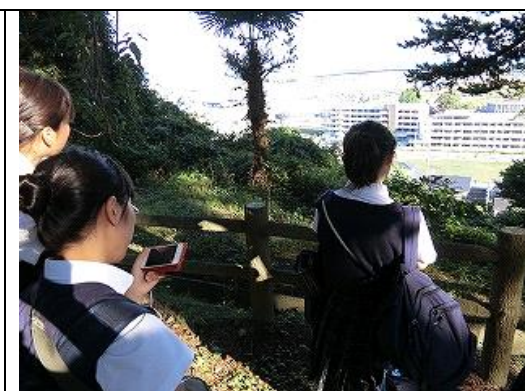
つなぐ館



防災まちあるきプログラム



防災ワークショップ



日和山



仙台市内 街歩き



東北大学災害科学国際研究所



東北大学災害科学国際研究所



南三陸町 フィールドワーク



ホテル観洋女将さん語り部 講話



ホテル観洋 語り部バス



まちあるき語り部ツアー



まちあるき語り部ツアー



旧大川小学校 訪問

5. 参加生徒の所感

被災地の今について学べたことが大きかったと思います。今も仮設住宅で暮らす人がいたり、砂の山ばかりの地域があったり、人々が知らないような今の現状を自らの目で確認することができました。それ以外にも、たくさんの方々との交流を通して、復興とは何なのか、なぜ震災を風化してはならないのか、どうすれば震災に興味を持ってもらえるのかなどの答えが見つからない問いと向き合うことが出来ました。これらの問いについて、今後、自分の中での考えをまとめていきたいと思っています。

今回、南三陸町への訪問は一年ぶりでした。まちの様子はどんどん変わっていて、防災庁舎の前の献花台は昨年度とは異なり、工事をするために離れた場所に移されているのを見て、改めて今年も来てよかったと思いました。変わりゆく被災地を訪れて、明らかにものの復興は進んでいるけれど語り部さんの「こうして話しているけど、今でもやっぱりつらいです。」という言葉聞いて、やはり心の復興というものに終わりはないということを改めて感じました。その思いを傍で聞けて良かったです。

当時の様子を経験者から直接聞いたことが今回のプログラムで一番の収穫です。私達は神戸に住んでいるので阪神淡路大震災の語り部さんには出会うことが出来ませんが、東日本大震災の語り部さんにはなかなか出会えません。このプログラムでは多くの語り部さんのお話を聞くことが出来ました。一人ひとり違う内容のお話でしたがどれも衝撃的で印象に残りました。自分が辛い経験をしている中私達に伝えてくださったことはどれも忘れてはいけないなと強く感じました。

一つの地域に行くだけでは被災地の状況というのはわからないことに気が付きました。地域によって復興の現状には差があることがわかり、復興に関する一つの課題だと感じました。活動内容以外の点については、全員にリーダーとなってメンバーを引っ張る機会があったことが一番自分のためになった経験だと思います。メンバー全員が、少なくとも自分が担当の時には責任感を持ってました。

私は今回、KPの卒業論文の関係で惨事ストレスをテーマとして参加させてもらったのですが、やはり心の復興というものがどれだけ難しい事なのか感じました。その中で自分がどれだけ提案出来るのかは今後を考えを深めて行きたいと思います。

自分たちと現地の人たちの震災についての考えの違いです。私の中では、一日目の仙台青陵中等教育学校とのディスカッションが強く印象に残っています。2校とも震災の風化を防ぎたいという目的で活動を行ってきていました。しかし、目的は同じでも、その目的にした理由は全く違うものでした。私たちは「これから起こる震災を防止するために、過去の災害について学ぶ必要があるため、東日本大震災の記憶が風化するのを防ごう」という考えを持っていました（少なくとも私はそう考えていました）。しかし、仙台青陵中等教育学校の生徒は「震災について忘れてほしくない、覚えていてもらいたい」と考えており、両者の間にずれがありました。

実際に沢山話すことでより多くの意見や考えを吸収したり、共有することが出来ました。ここで学んだことをまずは自分自身が忘れないようにしていきたいと思いました。